

あなたはどちらの国に生きるのか？

「取るか？ 与えるか？」

詩篇 8：1～9 使徒 20：32～35

あなたはなぜ祝福されているのか？

詩編 8：1～9

(詩編)

『8:4 人とは、何者なのでしょう。あなたがこれを心に留められるとは。人の子とは、何者なのでしょう。あなたがこれを顧みられるとは。8:5 あなたは、人を、神よりいくらか劣るものとし、これに栄光と誉れの冠をかぶらせました。』

私たちに、多くの恵みが与えられています。感謝することがいっぱいあるのに、仕事や学校、家庭などに対して不足を言っていないですか？神様が与えてくれた恵みへの感謝を忘れ、私たちに任されたものを管理せず、不足を言っていないでしょうか？

私たちはなぜこんなに神様に祝福されているのでしょうか。それは神様があなたを憐れんでくれたからです。しかし、もし教会に来ていても自分の問題や生活が変化しないのなら、神様との時間・祈りの時間が足りないのかもしれない。

受けた恵みを流すものへ

(使徒)

20:35 『このように労苦して弱い者を助けなければならないこと、また、主イエスご自身が、「受けるより与えるほうが幸いである」と言われた御言葉を思い出すべきことを、私は、万事につけ、あなたがたに示してきたのです。』

だから、パウロは受け継がれたものを蒔くと決めました。パウロは恵まれた環境にありました。ローマの市民権をもっている貴族のような立場であったパウロは、わざわざ皮なめしという差別を受けるような仕事はしなくてよかったです。しかし、恵みを流すと決めたパウロは受けるより与える者になることを決断しました。

(使徒)

20：33 『私は人の金銀をむさぼったことはありません。』受けるより与えるものが幸いである。これが私たちの教会に与えられたテーマです。受け続けると危険です。今持っているものを自分のものだと思っていないでしょうか。祝福を継続させるためには、受けた恵みを流し続けることが大切です。

新島襄

(ヨハネ)

14：6 『イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』

この御言葉から新島襄が導き出した信念は、「人生の幸いは、己れ自ら幸福を得るにあらず。真道に歩み、身真道に委ね、真道を以て他人を益するにあり。人の偉大さは学識だけではなく、私心のなさに現れる。」でした。神様が用いなさいと言われているときにこれは私のだから・・・という思いがあるのなら、とても危険です。

受けるだけのものであり続けるなら、私たちの霊は死んでしまいます。あなたは受けるだけになっていないでしょうか。人の偉大さは学識ではなく、取る学びではなく、与える学びだという思いを新島襄は神様から与えられました。イエス様の真理に生きた新島襄や先人たちのおかげで、教育や医療が充実した今の岡山ができたのです。

苦しみのない栄光はない

(Iコリント) 10：13 『あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に会わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。』

ダビデは「苦しみに会ったことは私にとって幸いでした。」と祈りました。「神様〇〇をください」という祈りをしていませんか？本当にあなたは人生の十分の一を神様のために用いていますか。恵みボケしていませんか。受けるだけでは死海になってしまいます。

尾山令仁先生は戦時中に日本兵が侵略した国々を回り、謝罪をしてきました。尾山先生はイエス様がしたことを自分もしようと決断しました。「苦しみを通して栄光へ」が聖書の原則だと尾山先生は言われました。イエス様は人類で誰も経験することのない苦しみを受けられました。そこに人類の救いという大きな希望がありました。苦しみがあつたとき、神様はそれに耐えられるだけのものと、そればかりかその先に大きな希望を用意してくださっています。苦しみの洞窟ではなくトンネルです。苦しみがあつたとき、私たちはその苦しみを乗り越えることができます。そ

の苦しみを通して神様の計画があります。それは神様があなたを評価して選んでくださっているということです。

あなたには苦しみがありますか。その苦しみを通して神様が御業をなさせてくださいます。あなたは評価され選ばれていることを受け取りましょう。涙と共に蒔くものと神様は共にいて祝福してくださいます。神様の元に感謝をもって戻りましょう。喜んで神様の元に集まる礼拝者となれるように祈りましょう。不足や不満を手放しましょう。

感謝の捧げもの

(ピリピ) 4：6 『何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもって捧げる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。4：7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。』

神様は脱出の道に感謝のきっかけを与えてくださっています。困難のなかにあるとき、感謝をもって祈りなさいと神様は言われています。私たちは守られています。不足や不満を手放し、主のよしてくださったことへの感謝を捧げましょう。感謝をもって種を蒔くとき、必ず収穫があります。「涙と共に種を蒔く人は喜びながら刈り取る」私たちの教会にとって大切なテーマです。ミレーの絵は種を蒔く人が中心です。ゴッホの絵は太陽が中心です。涙と共に種を蒔くとき、神様が中心となります。神様は落ちた穂は取ってはいけなと言われていて、自分に与えられたものを自分だけのものにしていませんか。収穫の中から10分の3(什一・将来の備え・誰かのため)を取って置き、祈りの時間を大切にしていましょ。

管理できていない事は何でしょうか。管理できていないことがあると、人は人に指をさしてしまいます。

不安定な心の状態・自分を責める心・比べる心・問題・・・そのようなものを持っていたとしても、イエス様がどんなお方なのかを思い出し、御言葉はそのことに対して何を語っているかを求めて祈りましょう。

さいごに

みなさんは自分に任されたことを管理しないで、不足に目が向いていませんか？イエス様はあなたの苦しみを背負い、それを取り去るためにどれほどの痛みと人の悪を身に引いていますか。あなたの苦しみを神様は知っておられます。ゴッホの絵は、絵の真ん中に自分を描いていました。

ゴッホは悲しみの中、種を蒔きました。彼の悲しみは喜びに変えられました。ゴッホの絵の中心には神様の光のような太陽が描かれ、ゴッホは胸のほうに自分を描きました。ゴッホの絵は今の尚私たちにメッセージを送っています。岡山にも、地位と名誉を求めず、結核病院を始めた医師がいました。よくわからない病気と向き合い、イエス様の愛を流しました。貧しい時代には、種を蒔くことを厭いませんでした。しかし、豊かになった今、自分の持っているものを独り占めたいと思うようになっていきます。

もし今苦しみの中にあるなら、何と幸せなことでしょう。イエス様の痛みが分かり、隣人の痛みを理解することができます。神様は必ずあなたに脱出の道を与えます。痛みの中で終わることはありません。苦しみの中にある時、感謝できないときに感謝しようとするときに本当の感謝は起きます。だから、苦しみの中、感謝の祈りを捧げましょう。今、あなたの心を神様に向けましょう。あなたの時間の10分の1を神様のために使っていますか。

17日のコンサートやイベントのために蒔いた種のために祈りましょう。久しく教会に來られていない方、長期療養中の方のために祈りましょう。ウクライナの人々、世界平和のために祈りましょう。今自分に弱さを覚えている人、だからこそ、痛みを負った仲間のために祈り、示されたことがあるならアクションを起こして行きましょう。

豊かな中にあつても不足に目が向いていませんか。時がよくても悪くても、どんな時でも人々に種を蒔くことができますように。神様に恵みをお返しすることができる者とならせてください。

(要約者：山本 洋子)

(2023年7月2日)